

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 4 部門第 1 区分  
 【発行日】平成 19 年 5 月 24 日 (2007.5.24)

【公表番号】特表 2006-522884 (P2006-522884A)  
 【公表日】平成 18 年 10 月 5 日 (2006.10.5)  
 【年通号数】公開・登録公報 2006-039  
 【出願番号】特願 2006-506104 (P2006-506104)  
 【国際特許分類】

**E 0 5 B 49/00 (2006.01)**

**E 0 5 B 35/00 (2006.01)**

【F I】

E 0 5 B 49/00 F

E 0 5 B 35/00 B

【手続補正書】  
 【提出日】平成 19 年 3 月 22 日 (2007.3.22)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

ロックと、キーと、ドアが閉位置にあるかどうかを検出するセンサとを備えたドア用ロッキング装置であって、前記キーは、前記ドアの第 1 の側で、前記ドアが開錠可能となるように前記ロックと係合可能であり、その後、前記キーは前記第 1 の側から離れた前記ドアの第 2 の側で前記ロックとの係合から離脱することができ、ここで、前記センサが、ドアが閉位置にあることを検出した場合、前記キーは一旦前記ロックに係合すると単に取り外すことができるのみであり、かつ、一旦前記ロックに係合すると、前記キーは前記ドアの前記第 2 の側でのみ離脱可能であり、このキーの取り外しは前記ドアのロッキングを引き起こすようになっていることを特徴とするドア用ロッキング装置。

【請求項 2】

前記キーはカードの形態をしている請求項 1 に記載のロッキング装置。

【請求項 3】

前記キーは、このキーに設けられた 1 または 2 以上の切込みによって前記ロック装置に係合する請求項 1 または 2 に記載のドア用ロッキング装置。

【請求項 4】

前記キーに設けられた 1 または 2 以上の切込みは、前記ロック装置の歯車によって前記ロックと係合する請求項 3 に記載のロッキング装置。

【請求項 5】

前記歯車は、施錠されたドアを開錠しまたは開錠されたドアを施錠するように、前記ロックを作動するように機能する請求項 4 に記載のロッキング装置。

【請求項 6】

前記キーの 1 または 2 以上の切込みは、前記ロッキング装置の一部の動作をしている間、前記キーの前記ロックからの離脱を防止するように、前記ロック中への前記キーの保持を可能とするように機能する請求項 3 に記載のロッキング装置。